

2020 年 11 月 20 日

BMW グループがダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス 2020 で業界トップに

世界で最も持続可能性の高い自動車メーカー

ミュンヘン発：

S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスが最近公開した世界およびヨーロッパのダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス (DJSI) の評価において、**BMW グループ**が「自動車」セクターで **100** ポイント中 **80** ポイントを獲得して **1** 位となった。これにより、**BMW グループ**は、世界で最も持続可能性の高い自動車メーカーとして、証明された。**BMW グループ**は、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスの開始以来、何年も業界のトップグループにいる唯一の自動車メーカーである。

2020 年には、自動車産業から合計 **39** の企業が評価された。結果によれば、**BMW グループ**は、**3** つの評価部門（ガバナンス&経済、環境、社会的側面）すべてにおいて、更なる改善を示した。

「気候変動との戦いと資源利用は、社会の将来、そして **BMW グループ**の将来をも決定します。そのため、当社はサステナビリティと資源保護を企業方針の中心に置き、その2つをあらゆる部門で規定しました。将来の成功を見据えた重要な布石であると、見なしています。なぜなら、ビジネス・モデルとサステナビリティは、当社にとって切り離せないものだからです。」と、**BMW AG** 取締役会会長オリバー・ツィプセは語っている。

現在、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスで業界のトップにいるという事実は、**BMW グループ**がすでに数年前から取り組んできた継続的な改善の成果に他ならない。**2006** 年に国際的な生産ネットワークが本格化して以降、各生産車両当たりのエネルギー消費量は **40** パーセント縮小され、**CO₂** 排出量は約 **70** パーセント削減されている。すべての生産拠点では、再生可能エネルギーによる電力だけを購入している。さらに、**BMW グループ**は、**1995** 年から **2019** 年の間に、ヨーロッパで販売した新車の **CO₂** 排出量を約 **42** パーセント削減した。さらにはサプライ・チェーン・マネジメントでも一貫して高い環境基準および社会的基準を設定し、この分野の先駆者となっている。

気候変動との戦いと責任ある資源利用でも次の一步を踏み出している。この 7 月に、**BMW グループ**は、サステナビリティ分野で新たな戦略方針を打ち出した。

ここでは、**2030** 年までの明確な **CO₂** 削減目標が示されている。新規事項としては、今回初めて、サプライ・チェーンから生産、使用終了までの全ライフ・サイクルにわ

たり、この目標が設定されていることである。全体として、各車両当たりの CO₂ 排出量は少なくとも 3 分の 1 低下すると考えられる。BMW グループが 2019 年に生産した 250 万台以上の車にこれを適用すれば、2030 年にはライフ・サイクルを通じて CO₂ が 4 千万 t 以上減少することになる。

生産では、2019 年から 2030 年までに BMW グループの排出量（スコア 1+2）を 80% 縮小する。これに成功すれば、残存する排出量は 2006 年当時に比べて 10% 以下となる。

2020 年以降は 100% のグリーン電力を購入することに加え、BMW グループはエネルギー効率の徹底した最適化への投資も行う予定である。さらに、世界中の生産現場での残りの排出量は、該当する排出許可証を利用して補正する。これにより、BMW グループの全工場は、2021 年以降、クライメート・ニュートラルで生産を行うことになる。

2030 年までに、BMW グループの車両は、1 キロメートル当たりの CO₂ 排出量を 40% 低減する。この目標は、e モビリティの大規模な拡大によって達成する予定である。すなわち、BMW グループは 10 年間で合計 700 万台以上の電気自動車を送り出す計画で、その約 2/3 は純電気自動車である。

サプライ・チェーンにおいても、BMW グループは各車両当たりの CO₂ 排出量を、2019 年と比較して 20 パーセント低下させる。従って、サプライヤーの CO₂ フットプリントは、今後、決定プロセスでの委託基準として定着するだろう。これによって BMW グループは、サプライ・チェーンの具体的な CO₂ 目標値を定めた最初の自動車メーカーとして先駆的な地位を占めることになる。

BMW グループは、明確にパリ協定に従い、新たに掲げられた目標によって、2°C の目標よりもさらに野心的な道を目指している。